

ユニバーサルデザインガイドブック

Universal Design

すべての人の尊厳と社会参加が保障され
等しく社会の一員として尊重される社会をめざして



鳥取県

ユニバーサルデザインを知ろう!

目次

| | |
|---------------------------|---|
| ユニバーサルデザインとは…………… | 3 |
| ユニバーサルデザインの7原則…………… | 4 |
| ユニバーサルデザインとバリアフリーの違い…………… | 5 |
| なぜ、ユニバーサルデザインが必要か…………… | 6 |
| ユニバーサルデザイン推進のメリット…………… | 7 |
| 身の回りのユニバーサルデザイン(1)…………… | 8 |
| 身の回りのユニバーサルデザイン(2)…………… | 9 |



鳥取県人権文化センターキャラクター
ふらっちょー

| | |
|----------------------------|----|
| ユニバーサルデザイン取組(サービスと情報)…………… | 10 |
| ユニバーサルデザイン取組(施設と環境)…………… | 11 |
| ユニバーサルデザインの普及啓発…………… | 12 |
| カラーユニバーサルデザイン…………… | 13 |
| “心”のユニバーサルデザイン…………… | 14 |
| “支え愛”のまちづくり…………… | 15 |



ユニバーサルデザインとは

「ユニバーサルデザイン」とは

年齢や性別、障がいの有無によらず、はじめからすべての人にとってできるかぎり利用可能になるように、環境・情報・サービスを設計することです。

この考え方は1980年代に、自身も重度の障がいのある方で、アメリカのノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス教授によって提唱されました。

どういう意味か
教えて？



【3つのポイント】

- さまざまな人々にとって使いやすくなる設計
- 構造を含めた広い意味でのデザイン
- 特定の人だけを対象としない

鳥取県では、「鳥取県人権施策基本方針」の人権尊重の基本理念の一つとして「**ユニバーサルデザインの推進**」を掲げて、取組を進めています。

すべての人が尊重される社会の実現

ユニバーサルデザインの7原則

1 公平性

だれにでも公平に使用できること。



「自動ドア」

車イスを利用されている方、目の不自由な方、荷物で両手がふさがっている方など同じ条件で利用できます。

2 自由度

使う上で自由度が高いこと。



「駅の階段」

利用する人が、階段・エスカレーター・エレベーターを自由に選ぶことができます。

3 単純性

使用方法が簡単で直感的に分かるようになっていること。



「スイッチ」

毎日使うスイッチは、特別な説明を受けなくても直感的に押すことができます。

4 分かりやすさ

必要な情報がすぐ理解できること。



「絵文字」(ピクトグラム)

絵で情報を表示することで、言語によらず伝えたい内容を表すことができます。

5 安全性

うっかりミスや危険につながらないデザインであること。



「お風呂の出入口」

出入口の段差を取り除くことで、お年寄りやけがをしている人などの危険をなくすことができます。

6 省体力

無理な姿勢や強い力なしで楽に使用できること。



「階段の手すり」

手すりの形や取り付ける場所を工夫することで利用者の負担を軽減することができます。

7 スペースの確保

さまざまな利用者のことを考えて広さや空間を備えていること。



「多目的トイレ」

車イスを利用されている方にも十分に展開できる空間があり、オストメイトや子ども連れの方などが目的に合わせて利用できます。

ユニバーサルデザインとバリアフリーの違い

私たちの周りには、お年寄りやけがや病気で身体の自由が利かない人、外国から来て日本語が分からない人など、さまざまな人が暮らしています。**社会生活をしていく上でバリアとなるものを取り除く**とともに、新しいバリアをつくらないことが大切です。物理的な障壁や社会的、制度的、心理的なすべての障壁をなくそうとする考え方を「バリアフリー」と言います。

しかし、バリアフリーはお年寄りやけが等で身体の自由が利かない人が利用するものというイメージがあり、利用することに抵抗がある人もいます。「ユニバーサルデザイン」は、新しいバリアが生じないように**だれにとっても利用しやすい**ように物（製品）、施設、環境、サービスなどをデザインするという考え方です。

(身近な例)

バリア(障壁)

階段は、車イス等を使用している方は簡単に利用できません。



バリアフリー

スロープを設けることで、車イス等でも利用しやすくなります。



ユニバーサルデザイン

最初から段差がないので、すべての人が利用しやすくなります。



すべての人が暮らしやすい社会を目指しているところは、「バリアフリー」も「ユニバーサルデザイン」も同じ考え方です。

バリアフリーとの違いがわかったぞ!



なぜ、ユニバーサルデザインが必要か

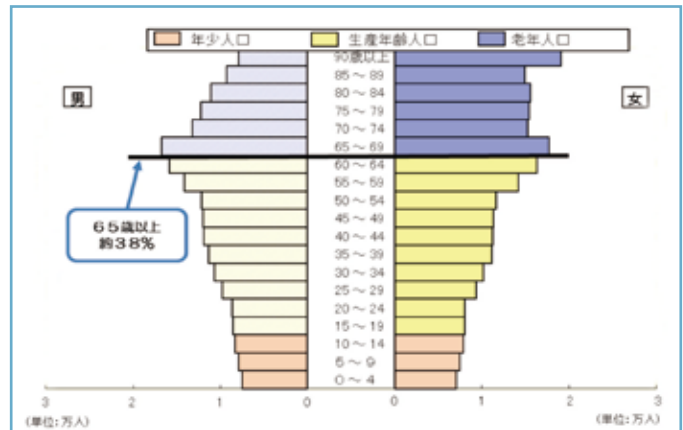
時代の要請

- 鳥取県の人口は、2014年時点で約57万人です。少子高齢化が進んでおり、県内では**4人に1人以上がお年寄り**という状態になっています。2040年には約44万人に減少するという推計があり、**3人に1人以上がお年寄りという超高齢化社会**が現実味を帯びてきます。体の不自由な方が多くなることが予想され、**より暮らしやすい環境づくり**が大切になっています。

高齢化の進行（県老年人口割合）

7.7% → **13.7%** → **26.3%**
(1960年) (1985年) (2010年)

■ 鳥取県2040年推計人口ピラミッド



資料：鳥取県地域振興部統計課

企業の社会的責任の重視

安全・安心な 製品づくりの追求

- 企業が製品をつくる上でも、消費者が必要としているものを見極めることは重要です。**だれもが使いやすい、安心して公平に利用できる製品づくり**が大切になります。

- 仕事と家庭の両立に配慮しながら、男女ともに働きやすい職場環境づくりを積極的に進めるなど、多様な生き方が選べる社会を構築するため、**ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の促進**が大切になっています。

男女共同参画の必要性

仕事と生活の 両立



国際化の発展

情報を 平等に伝える

- 国際化が進み、さまざまな言語を使う方が国内にいらっしやいます。**すべての人に情報が分かりやすく届くことが大切**になります。